

2021年12月22日
電通ジャパンネットワーク
社長執行役員（CEO） 五十嵐 博

電通ジャパンネットワーク、
「サステナビリティ・コミュニケーションガイド」を発行
— 「SDGs コミュニケーションガイド」を刷新し SX 支援 —

電通ジャパンネットワーク（本社：東京都港区、社長執行役員（CEO）：五十嵐 博）は、電通グループ横断でサステナビリティに関するプロジェクトを推進する「サステナビリティ推進オフィス」および「電通 Team SDGs」のもと、「サステナビリティ・コミュニケーションガイド」を発行しました。

電通 Team SDGs は、2018 年に「SDGs コミュニケーションガイド」※を企画・制作のうえ無料公開し、以降多くの方々にご活用いただいています。それからの3年間、サステナビリティ推進オフィスおよび電通 Team SDGs は、電通ジャパンネットワークの事業を通じたサステナビリティ領域のイノベーション、価値創造を行いながら、同領域における知見やネットワークを拡充し、コミュニケーションに関連する経験を蓄積してきました。このたび、これらに有識者の方々のご意見も加えることで、より多くの方々にご活用いただける「サステナビリティ・コミュニケーションガイド」を発行しました。本ガイドは、後述の URL から無料でダウンロードしていただけます。

新型コロナウイルスの感染拡大や社会情勢の変化に伴い、SDGs という言葉の認知度もこの1年で大幅に高まり、消費者にとっても「サステナビリティ」に関する事柄は身近な関心事となっています。企業や団体の SDGs、サステナビリティに関する取り組みやコミュニケーション活動についても、日常的にメディアや SNS などにおける意見・議論が増えていることもあり、個々の施策だけでなく、組織全体での取り組みとして、稼ぐ力と ESG の両立によって経営の在り方の変革を目指す SX（サステナビリティ・トランスフォーメーション）の重要性が増しています。

本ガイドは、直近数年間のサステナビリティに関する国内外の情勢を提示するとともに、コミュニケーションを行う際の検討・企画・制作・発信など各段階のチェックリストと、押さえるべき環境と人権に関する視点もまとめています。本ガイドをご活用いただき、サステナビリティに関する取り組みとコミュニケーション活動をより推進していただくことで、本ガイドが持続可能な社会づくりへの一助となればと考えています。

電通ジャパンネットワークは、今後も、顧客企業を含むあらゆるステークホルダーの皆さまとともに、広告コミュニケーション分野にとどまらない多様な施策やビジネスを通じて、持続可能な社会の実現に貢献してまいります。

<「サステナビリティ・コミュニケーションガイド」の概要・構成>

■はじめに

■サステナビリティに関する最近の動き

■パート 1：実践的サステナビリティ・コミュニケーション～事例とチェックリスト～

チェックの視点

0. コミュニケーションをはじめる前に

1. コミュニケーションを準備するとき

2. 表現を企画するとき

3. 表現を制作するとき

4. SDGs ロゴを使用するとき

5. 表現案ができあがったら

6. コミュニケーションをした後

- ・ステークホルダーと起こり得る^{あつれき}軋轢
- ・リテラシーを常に向上させていくために
- ・参考：広告電通賞 SDGs 特別賞入賞作品

■パート 2：サステナビリティ・コミュニケーションの背景と文脈

- ・ 背景となる社会の変化と、持つべき視点
- ・ SDGs コミュニケーションの前提として知っておいてほしいこと

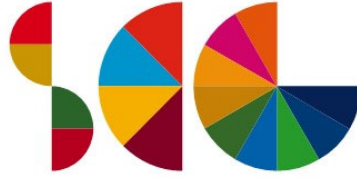
■付録

- ・ 大きく進展した日本企業の SDGs に関する取り組み
- ・ SDGs に関する日本の生活者の意識
- ・ コロナ禍を経て変化した、人々の社会課題意識
- ・ 楽観視できないサステナビリティをめぐる状況
- ・ グローバルなコミュニケーション設計の注意点
- ・ グローバルにおける自社の現在地を確認しよう
- ・ 環境コミュニケーションに関する規制など
- ・ 人権コミュニケーションに関する規制など

配布方法：下記 URL からダウンロード

URL: https://www.dentsu.co.jp/csr/team_sdgs/pdf/sustainability_communication_guide.pdf

<「サステナビリティ・コミュニケーションガイド」からの抜粋>



Sustainability Communication Guide

サステナビリティ・コミュニケーションガイド
実践的チェックリストと背景となる社会の変化

dentsu
japan network

Dentsu Team
SDGs

1. コミュニケーションを準備するとき

多様性のあるメンバーでチームが構成されているか。

属性（性別、年齢、出身国、障害の有無など）に近いメンバーばかりだと、アイデアの多様性という面では不利かもしれません。また、メンバー間では気にならないことが外から見たときに気になる、ということも起きがちです。

チームの風通しはいいか。

せっかくメンバーの多様性を高めても、自由に発言できる雰囲気がなければ意味がありません。フランクになんでも話せる、心理的安全性を確保しましょう。

単発的ではなく、持続可能な取り組みか。

サステナビリティに関する取り組みは、時間をかけてじっくり働きかけるべきものが多いのでは。サステナビリティ・コミュニケーションがサステナブルではない、ということにならないようにしたいものです。

その取り組みに「自社ならではの」必然性があるか。

上記とも関連しますが、取り組み自体がサステナブルに続いていくためには、必然性が重要です。どの企業がやってもよいような取り組みをしてはいけない、ということではありませんが、自社の事業と関連があり、取り組む理由が明確なものほど納得性のあるコミュニケーションにつながります。

社会変革につながる可能性を感じられるか。

いま求められているのは、社会をサステナブルなかたちに変革していく取り組みです。自社だけで完結するのではなく、生活者をはじめさまざまなステークホルダーを巻き込んで、世界を変える取り組みに挑戦できると、真に「サステナブル」な取り組み/コミュニケーションと言えます。ここまで見据えられると、本質的なアプローチとなります。

このコミュニケーションを
実施するチームは？
どんな内容にする？



3. 表現を制作するとき①

人権への配慮

これまでの前例や過去の経験と同じ対応で大丈夫かどうか、改めて問う。社会の変化が加速しています。これまで問題視されなかったことが、今はそうではない、ということが往々にして起こり得るため、社会の動きを常に見ながらの判断が必要です。

1 言葉本来の語源を調べてから表現に用いる

- 宗教的背景、歴史的背景などによって、言葉の意味が違って受け取られる場合もあります。

2 広告表現に登場している人たちや集団の表現方法が適切かどうか検証する

- ステレオタイプな役割やイメージ、先入観、差別意識などが表現されていないかどうかをチェックしましょう。

※以前はOKだったものがNGになるケースも増えています。価値観の変化もありますが、そもそもNGだったものが今まで看過されてきたケースも少なくないことには注意が必要です。

- 疎外されている人はいないか、登場人物に多様性があるか、についても考えてみましょう。

3 各国で価値観・文化の相違があることを認識しておく

- 歴史や民族に対する評価・理解は国や民族等によって大きく異なります。

4 一部だけ切り取られ独り歩きした場合も想定しておく

具体的な配慮例

■ 基本的な原則として

- あらゆる差別や偏見（人種、民族、性別、性自認、性的指向、障害、宗教、出自、年齢等を含む全ての分野）を排除
- 社会情報や時代背景で判断基準も変わることに注意
- ステレオタイプの観点での描写は避ける

■ ジェンダー（性差別、性自認、性的指向など）

- 性別役割固定の観点はNG
- ステレオタイプの描写にも要注意

■ 人種、民族

- 肌の色や外見上の特徴を誇張、揶揄する表現はNG
- いわゆる先進国的な視点で他国を評価しない

■ 障害者、疾病

- 客観的な情報を確認して取り扱う
- 「健常者」と対照する視点に注意

このコミュニケーションで嫌な思いをする人はいないか？



<参考：電通「サステナビリティ・コミュニケーションガイド」作成協力>

- ・ 栗野 美佳子（一般社団法人 SusCon 代表理事）
- ・ 安藤 勉（電通ダイバーシティ・ラボ）
- ・ 上田 壮一（一般社団法人シンク・ジ・アース 理事、多摩美術大学 客員教授）
- ・ 金田 晃一（株式会社 NTT データ 総務部サステナビリティ担当、シニア・スペシャリスト、広告電通賞 SDGs 特別賞選考委員長）
- ・ 後藤 敏彦（一般社団法人グローバル・コンパクト・ネットワーク・ジャパン（GCNJ） 理事、特定非営利活動法人サステナビリティ日本フォーラム 代表理事）
- ・ 根本 かおる（国連広報センター 所長）

注：上記は、五十音順・敬称略。カッコ内は 2021 年 12 月現在の所属および役職等。

※ 2018 年公開「SDGs コミュニケーションガイド」

URL：https://www.dentsu.co.jp/csr/team_sdgs/pdf/sdgs_communication_guide.pdf

【本ガイドに関する問い合わせ先】

電通ジャパンネットワーク サステナビリティ推進オフィス

Email : sustainability@dentsu-group.com

電通 Team SDGs

Email : team-sdgs@dentsu.co.jp

【本リリースに関する問い合わせ先】

株式会社電通グループ グループコーポレートコミュニケーションオフィス

TEL : 03-6217-6601 Email : group-cc@dentsu-group.com

株式会社電通グループでは、新型コロナウイルス対策の一環として、現在リモートワークを実施しておりますので、同期間のお問い合わせは、Eメールにてお願いいたします。